

## 医療情報学部 医療情報学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 1. 教育課程の編成及び特色

医療情報専攻と臨床工学専攻では育成すべき人材像に対応したコンピテンシーを達成するために、コンピテンシーに関連付けた科目を体系的に編成し、適切な教育方法で授業を実施します。科目間の関連は、その内容や難易度にもとづきナンバリングして表現します。

### 2. 教育内容

#### （1）教養教育

本学の教育目的にある「生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力を育成」という視点のもと、教養教育が定める人材像の育成を実現するために、「基礎教育科目」と「人間教育科目」から構成されるカリキュラムを定め、専門教育を支える幅広い基礎知識をバランスよく獲得するとともに、現代社会における市民性の涵養を目指すことにより、本学の特色ある教養教育の目的を達成します。

##### ①「基礎教育科目」

中等教育までの学びを深め、学ぶ意義を理解すること、そして大学や生涯を通して共通基盤となる資質・能力と人間性の基礎を育成します。

##### ②「人間教育科目」

「人間」「社会」「自然」「情報とクリティカルシンキング」「外国語」「総合」の科目群により、物事を幅広い視点からとらえる力、論理的な思考力・判断力、主体的に行動する知力や体力などを育成します。特に、国際交流科目では、異文化を理解し、「正解」のない世界規模の様々な難題について多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かっていく行動力を養います。また、キャリア教育では、自分の軸を定め、ワーク・ライフ・バランスのもとで、自己実現を果たし、社会貢献に資する人材を育成します。

#### （2）専門教育

医療情報学科には、将来、社会に出てからの方向性を考慮して、医療事務、診療情報管理、医療情報技術、食を中心とした健康科学などを主体とする医療情報専攻と、臨床工学技士養成を主体とする臨床工学専攻の2つの専攻を設定しています。

##### ①医療情報専攻

###### ・領域共通のカリキュラム

医療情報専攻には診療情報管理領域、健康情報科学領域と医療情報エンジニア領域を用意していますが、入学時には領域別クラス編成はとらず、一律の教育体制にて共通教育の実践による一般教養を修得し、その後領域ごとの専門教育を実施します。

###### ・診療情報管理領域のカリキュラム

診療情報管理領域では、医療事務、診療情報、医学的知識をはじめとする専門カリキュラムを設け、診療情報管理を学びます。さらに病院実習による実践教育、コミュニケーション技術向上のための独自のカリキュラムに沿って、病院実務で求められる技能と知識を学びます。

###### ・健康情報科学領域のカリキュラム

健康情報科学領域では、栄養学、食品化学、分子生物学などの独自の専門カリキュラムを設け、医療、食と健康、情報を横断的に学びます。さらにバイオインフォマティクス分野の実習による実践教育などの独自のカリキュラムに沿って、健康や病気との関わりが大きい食品や栄養、遺伝子、さらにはそれらの情報の利活用について学びます。

###### ・医療情報エンジニア領域のカリキュラム

医療情報エンジニア領域では、プログラミング、データサイエンス、及び人工知能（AI）や機械学習等に関わる専門科目を通じて、これからのエンジニアに必要とされる基本的スキルを身につけていき

ます。こうした技術の応用先として最も有望と言われているのが医学・医療・健康分野であり、独自のカリキュラムに従って医学・医療・健康分野の専門知識を体系的に学びつつ、医療画像処理、IoT 技術、遺伝子解析等、この分野での即戦力となる応用的スキルを、実践を通じて学んでいくことができます。

資格に関しては、いずれの領域とも同じ資格受験が可能であり領域間を超えた複数の資格取得を目指すことができます。

## ②臨床工学専攻

- ・臨床工学専攻には臨床工学技士領域が設けられており、入学時の共通教育にはじまり、国家資格合格のための専門科目を各学年に効率的に配置し、さらに独自の医療情報技術の修得、コミュニケーション能力向上も目的とした病院実習を含め、入学より卒業まで一律に学ぶことで、国家資格取得のための知識とともに総合的な判断力、コミュニケーション能力を養う教育を行います。
- ・臨床工学技士国家試験の受験を希望しない学生に向けた科目編成も用意しており、選択の幅を広げることで臨床工学分野のみならずネットワークシステムやコンピュータシステムなどを学び、企業等で医療と医用工学の橋渡しをする教育を行います。

## 3. 教育方法

教育の方法については以下のように定めます。

### ①基礎教育科目

- ・初年次教育科目を含む「基礎教育科目」は、1 年生を対象とし、20 人から 40 人の少人数でクラスを構成します。これにより、グループワークや少人数で行うアクティブ・ラーニングを行います。また、初年次教育科目では、タイムマネジメント、倫理、心と体の健康、クリティカルシンキングへの導入なども行います。タイムマネジメントでは、ラーニングマネジメントシステム上に本学が構築した「週ごとの時間管理システム」を活用します。

### ②人間教育科目

- ・「人間教育科目」は、1 年生から 3 年生に配置されます。多人数クラスになる科目がありますが、電子教科書および本学が開発した SNS 授業ツールも活用することで、アクティブ・ラーニングによる主体的な学びの実現を目指します。

### ③総合科目

- ・「総合」の国際交流科目では、学生を海外に派遣します。一部の国際交流科目では、海外の学生との協調学習によりグローバル人材を育成します。キャリア教育では一部で学習者適応型 e ラーニングを取り入れます。

### ④学習者適応型 e ラーニング

- ・自発的な学習能力を高めるために一部の専門科目において学習者適応型 e ラーニングを導入し、少人数の指導により能動的な学びの実践を目標とします。コンピテンシーの中で主に知識を修得することにつなげます。

### ⑤少人数教育

- ・医療コミュニケーション能力、PBL (Project Based Learning) を活用した問題解決能力を向上させるための専門教育を少人数において実践することで、コンピテンシーの中で主に心構えを修得することにつなげます。

### ⑥実験および実習科目

- ・個別もしくは少人数によるきめ細やかな指導につなげます。コンピテンシーの中で主に実務に叶うスキルを修得することにつなげます。

## 4. 学修成果の評価

学修成果の評価は以下の方法で行います。

### ①コミュニケーション力開発等の科目

- ・初年次教育科目などコミュニケーション力開発等の科目では、レポート、面接等で評価します。

②実技系の科目

- ・実技系の科目では、実技で評価します。

③知識伝達型の科目

- ・知識伝達型の科目では、小テスト、定期試験、課題、レポート等で評価します。

④実験・実習科目

- ・実験・実習科目については実技内容、レポートで評価します。

⑤病院実習および臨床実習

- ・病院実習および臨床実習ではレポート、実習内容、実習報告を活用し総合的に評価します。

⑥卒業研究

- ・4年間の学習活動に応じた学習目標（ルーブリック）と到達度および卒業研究によって評価します。
- ・4年次に卒業論文の発表を求め、複数の教員の評価のもと、担当教員が合格を判定します。また、GPA 値の一番高い学生を成績最優秀者として選び、学位授与式において表彰します。